

## 本校の人権教育の目標

- 地域の実態や生徒の発達段階を考慮しながら、学校の教育活動全体を通して、人権尊重の精神の涵養を図る。
- 人権感覚や人権意識を自然と身に付けることができる人権教育の整備・充実を図る。

### I 実践

#### 1 実践テーマ

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる生徒の育成

#### 2 実践内容

##### (1) あいさつ運動

あいさつ運動を通してあいさつをすることの大切さを改めて実感し、より明るい学校にしようとする意識を高めることをねらいとし、生徒会が主催し、学期に一度行っている。クラスごとに正門や昇降口等に一列に並び、「おはようございます。」とあいさつをした。最初は小さな声しか出せなかった生徒達も、あいさつを繰り返すうちに慣れてきて、少しずつ大きな声であいさつできるようになってきた。「あいさつをして、あいさつを返してもらえるとうれしかった。自分もこれからは、恥ずかしがらずにあいさつしようと思った。」「あいさつの声や表情で、その人の心の様子も分かるような気がした。私も元気づく笑顔であいさつできるようにしたい。」(生徒の感想より)



##### (2) ゴミ0作戦

環境委員会が主催し、月に一度、登校途中に通学路のゴミを拾う運動を実施した。ゴミ拾いを通してボランティア精神を養い、自分たちが住む地域を大切にすることをねらいとしている。



##### (3) 茨城県人権啓発推進センター主催「人権メッセージ」への取り組み

人権尊重の精神の涵養を目指す人権教育の推進を図り、生徒の人権意識を高めることをねらいとして、全学年を対象に実施した。

### ○生徒の作品から

- ・ 朝起きて、ご飯を食べる。学校に行って、勉強して、友達とおしゃべりする。夜は、お風呂に入っ  
て、寝る。同じような日も、私にとっては一日一日が特別で大切です。
- ・ 「守ってあげる」なんて僕は言えない。それでも「いっしょに笑おう」とは言える。「泣いてもいい  
よ」とだって言える。僕らで守り合えばいい。「守ってあげる」なんて言葉じゃなくても、きっと僕ら  
の心は守られている。だから僕も守ってあげよう。いっしょに泣こう。そうしたら、いっしょに笑お  
う。苦しまないでいいんだよ。怖かったら僕らを頼って。だって僕らはみんな同じ人間なんだから。
- ・ 私たちには自由が平等に与えられています。でもこの自由には責任が伴います。楽しくしゃべった  
り、遊んだりすることも大切ですが、責任をもって行動することも、意識して生活していきたいです。

### (4) いのちの教育講演会

9月27日に、3年生を対象に渋谷えみ先生（茨城キリスト教大学看護学部准教授）を講師に招いて、「いのちの教育講演会」を実施した。「中学生のための性感染症の予防」や「命の重み」について話を聴くことを通して、自他の生命を尊重する心を育むとともに、自尊心を高め、人権意識を高揚させることをねらいとした。



### (5) PTA講演会「ケータイ・スマホ安全教室」

10月25日にPTA主催で全校生徒と保護者（希望者）を対象に、KDDIケータイ・スマホ安全教室認定講師を招いて、携帯電話やスマートフォンの安全な使用に関する講演会を開いた。無料通話アプリやSNSでのトラブルやいじめ、リベンジポルノなど、インターネット上での人権侵害を未然に防ぎ、情報モラルの向上を図ることをねらいとした。



## 3 道徳教育の充実

- (1) 年間指導計画に基づき、人権教育の視点に立った題材の選定と発問の工夫を図る。
- (2) ハイパーQUテストを活用し、自分の考えを発表しやすい親和的、受容的な人間関係を育む。

## II 今後の課題

生徒一人一人の人権意識を高めるためには、まず「知る」ことが大切である。

人権教育は特別な教育ではなく、学校教育全体を通して行う教育活動である。教師も人権教育への意識を高め、共通理解のもと人権教育を展開できるように、研修を充実させていきたい。学校教育を通し、生徒一人一人の人権意識を高め、実践できる態度を育てていきたい。